

正副議長就任記者会見（令和8年2月定例会）

日 時：令和8年3月19日（木）14:00～14:20

場 所：観光スポーツ文教警察委員会室

松尾議長



松下副議長



（愛媛新聞社：幹事社）

定刻になりましたので、正副議長定例記者会見を始めさせていただきます。

なお、議長は次の公務がありますので、記者会見の時間は14時20分までとさせていただきます。

まず初めに、議長からご挨拶をお願いします。

（議長）

先ほどの本会議において、第114代の議長を仰せつかりました、松尾和久と申します。経済発展のために松下副議長とともに一生懸命務めて参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

先ほど、議場での挨拶でも申し上げましたけども、我々を取り巻く環境というのは、長引く物価高対策が求められたり、国際情勢もいろいろと移り変わる中で、県民生活にも影響が出ているところがございます。我々県議会といたしましても、理事者と一緒になって県民生活を守っていくということに全力を尽くしていかなければならないと思っております。

今後とも、議長として、しっかりとその役目を果たせるように努めて参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

（愛媛新聞社：幹事社）

続いて、副議長からご挨拶をお願いします。

（副議長）

同じく、先ほど本会議において第111代の愛媛県議会副議長に就任させていただきました、松下行吉と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。1、1、1と験のいいところで副議長をさせていただいた、また、大変名誉な地位に就かせていただいたということで感激しております。私は昭和31年生まれでございます、議長とは一回り以上の年の差があるわけでございますけれど、議長は私よりも政治経験そして知識において大変深いものをお持ちですので、お支えするというのは僭越ではございますけれど、補佐役として円滑な議会運営に尽くしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

(愛媛新聞社：幹事社)

ありがとうございました。代表質問がありますので確認したいと思います。

県議会改革の一環で、これまでに議会側は政務活動費の収支報告書のホームページ上での公開や学校現場への県議派遣などを進めてきました。新たに就任した正副議長におかれましては、「開かれた県議会」に向けてどのように取り組みますか。就任の抱負と合わせてお聞かせください。

まず議長からお願いします。

(議長)

県議会ではこれまで歴代議長の下で議会改革検討協議会というものを毎年立ち上げて、副議長が座長を務めておりますけれども、開かれた議会の実現、また、議会のペーパーレス化なども進めて参りました。

そして、何よりも県民の皆様がこの県議会というものに関心を持っていただけるように、情報発信力の強化にも取り組んで参りました。例えば最近の取組といたしましては、令和6年、私が副議長で議会改革検討協議会の座長を務めさせていただいたのですが、当時の三宅議長に防音設備の整った親子傍聴室の設置を進言させていただきまして、早速、三宅議長には設置をしていただきました。この親子傍聴室はできるだけ若い世代の皆様に県議会に足を運んでいただきたい、赤ちゃんが少々騒いでも大丈夫という環境の下で、県議会に足を運んでいただくひとつのきっかけになればという思いで設置をさせていただきました。今日も、利用していただきましたが、ある程度利用をいただいているのかなと思います。今後も、もっと利用していただけるように、PRしていかなければいけないなと思います。

また、これも私が副議長の時に、議会の初めての取組で愛媛大学の法文学部の学生の皆様に、これまでは議会事務局の皆さんが県議会の仕組みなどについて講義で説明させていただいていたところを、議員自らが、自分の言葉で学生に語り掛けようということで、ある程度の時間をいただいて、私が県議会を代表して講義をさせていただきました。意外と学生の皆さんの反応が良く、アンケートでも話を聞いて良かったという結果もいただきましたことから、私が教育振興会の会長をさせていただいております松山東雲女子大学でも、ぜひ、お願いしたいということで、議会事務局の協力を得て、今年度は同大学でも実施したところです。議会改革検討協議会のメンバー全員で同大学に赴き、にぎやかに実施できたと伺っております。

こういったことも進めていくと同時に、今年度新たに高校生フォトコンテストを始めるなど、若い方をはじめ、県民の皆様にごう県議会に関心を持っていただけるかということについて努力しているところです。

一方、県議会としての基本的な姿勢としては議会基本条例にも規定しております、開かれた議会の実現に向けて取組を進めていくことが求められておりまして、令和8年度におきましても県民の皆様にもっと身近に感じていただけるにはどうしたらいいかということも、議会改革検討協議会において検討をしていただきながら、できるものから随時進めていきたいと考えているところです。

議長就任の抱負ですが、今年は5月に全国植樹祭えひめ2026がありますし、10月にはサイクリングしまなみ2026もあるということで、県政にとって大切な大きな行事が続いております。しっかり議長として務めを果たして参りたいと思いますし、来年以降も、日本で初めて開催されるVelo-city2027Ehimeや国民文化祭など大きな行事が控えていることから、これらを成功させるためにも準備を滞りなく進めていけるよう松下副議長と一緒に取り組んでいきたいと思っています。

(愛媛新聞社：幹事社)

ありがとうございました。続いて副議長お願いします。

(副議長)

私も議会の改革の件、開かれた議会の件につきましては、今年度も議会改革検討協議会のメンバーと活動させていただいたのですが、先ほど議長からもあったとおり、松山東雲女子大学と1月に主権者教育ということで、小集団学習といいますか7、8人くらいのグループで話を

させていただいたのですが、年が離れておりますことから、話題がないのではないかと心配しましたが、意外と和やかに話すことができ、若い方たちの考えが私どもに伝わりましたし、私ども議会人の考え方が若い方に伝わっていったのではないかと思います。こういった取組を着実に続けていって、県議会という形式ばったところから殻を破って皆様と接していけるのではないかと考えております。これからも、先ほど議長も申しましたように、8年度以降もこういった取組を続けて、高校生フォトコンテストもそうですが、多くの人に愛媛県議会に来ていただくといえますか、接することができるように努めて参りたいと思っています。

(愛媛新聞社：幹事社)

ありがとうございます。

ただいまのお答えにつきまして、質問がありましたらお願いします。

なお、質問に際しては社名、記者名をお願いします。

(愛媛新聞社)

愛媛新聞社です。今ほど、次年度以降も開かれた議会についての取組を進めていきたいというお話もありましたけども、新しいアイデアですとか、いま思い浮かんでいることがあれば教えていただけたらと思います。

(議長)

まだ、就任したばかりですが、ひとつ思うのは、我々の議員活動でもそうですけどもSNS対策というのも検討してみる価値があるのではと個人的には思っています。いま、若い方たちはテレビとかニュースとかホームページとかいうよりも、ショート動画とかSNSでの情報を見ているということを知りますので、やはり、若い方たちに政治に関心を持っていただくためには、公平性の観点も考えないといけないと思いますけども、そうしたことも取り組んでみる、検討をしてみるというのが大切かと思えます。

また、松山東雲女子大学と愛媛大学でやりましたけども、他の大学や専門学校、18歳を迎える高校生に対しても、もう少しできないかなと思っています。

(愛媛新聞社：幹事社)

ありがとうございます。副議長はいかがでしょう。

(副議長)

議長からSNSの話がありましたが、私たちの世代となりますと、ついていけないということもありますので、ある程度の年齢となっている方々も接することができるような情報ツールなども模索し、情報発信していければいいと思っています。

(愛媛新聞社：幹事社)

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

(NHK)

NHKです。新年度の大きなトピックとして議員定数の削減の議論があると思うのですが、賛否をどうこうというより、いかに論理的に軸にしていくかという類のものかと思うのですが、議長も委員のひとりとして長く審議に参加されていらっしゃると思いますが、新年度どういうふうな議会全体として議論を進めていかれたかというところを伺ってもよろしいでしょうか。

(議長)

私自身も定数等調査特別委員会に加わって、これまで議論してきましたが、これまでの議論の過程では削減はする方向で動いています。それから、削減するのは1か2ということと、今

回は選挙区は動かさないということを決定しているところです。新年度に新たに議論をスタートするわけではなくて、これまでの議論の積上げで、来年が我々の選挙ですから、周知期間を含めると早いタイミングで結論を出さないといけないということで、5月の国勢調査の速報値を確認して特別委員会での決定をみるのではないかと考えています。

ただ、議論の過程でいろいろ意見が出ますけども、我々としては、議員の数というのは地域の声を議会に届ける数とイコールになりますので、人口減少するところほど政治の光を当てる必要がある中で、人口の比率だけで削減をしていくことが果たして正解なのかどうかということもありつつも、県民の皆様の理解を得るためには、県全体の人口が減っていく中で、定数の削減というのも一定数必要があるという議論がされてきたと思っています。来年度と言われていますが、来年度中といわずに5月の速報値が出た後には早急に結論が出て、周知期間を経て、来年の県議選に臨んでいくようになるのではないかと考えています。

(NHK)

ありがとうございます。周知期間ということを見ると、やはり、1年前の次の6月議会というのがひとつ決定するめどになってくるということでしょうか。

(議長)

はい、そうです。本当は1年くらいは必要と言われておりますが、国勢調査の速報値をみないと最終結論ができないということで、それを待つということです。

(NHK)

ありがとうございます。

(あいテレビ)

あいテレビです。御就任おめでとうございます。愛媛県は人口減少だけではなく、多くの問題を抱えていると思いますが、二元代表制の一翼を担う県議会として、今後、知事や県とはどのような距離感で議論を深めていきたいのか、お考えをお聞かせいただきたいと思います。

(議長)

おっしゃるとおり、二元代表制の一翼を担う議会であります。我々が知事部局と違うのは、地域の声を聴いてきている、地域課題をそれぞれの立場で拾ってきているというのが議員でありまして、しかし、一方で、議員の中でもいろいろな思想、考えが違う、会派が違うなど、それぞれの議員の立場がありますので、それぞれの議員の意見を聞きながら、どう意見を集約して議会として理事者と向き合うのか、議長としてはしっかり図っていかなければいけないと思っています。多数の意見だけが大きな声で大事にされるような議会運営ではなくて、小さな声、そこにある県民の声をしっかりと形にしていくということも、いつも考えながら運営していきたいなと思っています。

理事者とは、そういう意味では、提案してくれるものに対して、我々が地域から聞いてきている声はこういうことがあるということを提案できるような議会であつたらいいなと思っています。そういうことでは、本会議で質問をぶつけるとか、委員会での質疑というところで、我々は議員としてしっかり務めを果たしていかなければならないなと思っています。

(あいテレビ)

副議長はいかがでしょう。

(副議長)

議長もおっしゃるとおり、行政側と少し違いがあるとしたら、県民にもっと近いところに行っているいろいろな意見を聞けるといったところがあると思います。47人の県議会議員で立場の違いがあつて聞いている意見があると思いますので、その意見の集約というところが、議長、副議長の仕事であると思っています。

(あいテレビ)

ありがとうございます。

(愛媛新聞社)

よろしいでしょうか。定数削減の関連ですが、県議会として1から2の定数削減という話は決まっております、さらには昨今、市町の議員さんも減っている中で、議員さん一人一人に求められる役割ですとか、責任というところは大きいと思います。この責任をどう果たしていくべきというところは、今、地域の声を拾ってくるというお話がありましたけども、どう質を確保するというか、拾っていくのか、議長、副議長の立場で、ご自身の活動もですし、各議員に対して求めること等あればお聞かせください。

(議長)

定数が減るということは、それだけ地域の声を拾う数が減ってくるということですので、我々議員の立場からすると減らしたくないという思いがありますし、削減された地域の人からしても我々の地域だけ減らされるという思いが出てくると思います。そこを丁寧に説明をしながら、当該選挙区の議員の皆様にはさらに頑張る地域の人に顔が見えるような活動をする中で、県議会とのつながり、県政とのつながりをしっかり役割を果たしていくということが求められるのだらうと思います。

(愛媛新聞社)

副議長はいかがでしょう。

(副議長)

予算もそうですが、理事者側の提案したのに対し理事者の方が情報も多いし、知識も深いと思うので、議員としては一人一人がそれに対応するというよりも、グループで理事者等との勉強会をするなどして、問題点やテーマがあればですけど、そういった接点も議員として持っていてもいいのではないかと考えはあります。

(愛媛新聞社)

そのほか、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

質問も出尽くしたようですので、以上で正副議長記者会見を終了します。ありがとうございました。